

# あすなる 通信

第9号 [2011年2月1日]

発行人：望月智行 編集人：経営管理室

医療法人財団 献心会  
川越胃腸病院

〒350-0034 埼玉県川越市仙波町2-9-2

電話：049-225-6888 URL：http://www.kib.or.jp/

## ピロリ菌感染症と胃がんについて



医療法人財団献心会  
理事長  
望月智行

国際的に見て、日本人に胃がんや胃潰瘍などの胃疾患が多いことは、以前から注目されてきました。その原因がピロリ菌にあることが1980年代に分かってから、胃疾患の診断と治療概念が大きく変化してきました。それまで消化器手術の多くを占めていた胃潰瘍や十二指腸潰瘍の手術は激減し、ピロリ菌を除菌することによって治療期間の短縮と再発の抑制に大きな効果を発揮しました。一方、日本人にとってがんの代名詞的な存在であった胃がんも、その後のピロリ菌研究によって、胃がんは「ピロリ菌の感染症」と言われるまでになりました。そこで2009年の日本ヘリコバクター学会から、「ヘリコバクター・ピロリ感染症の診断と治療ガイドライン2009改訂版」が出され、消化性潰瘍だけでなく、胃がんを含めたピロリ菌関連疾患の治療や予防のために、ピロリ菌の除菌を推奨しました。

日本では、今まで胃潰瘍と十二指腸潰瘍にしかピロリ菌の判定も除菌も保険適応がありませんでしたが、このほど新たに胃MALTRリンパ腫、特発性血小板減少性紫



冬の日本海(島根)

斑病、早期胃がんの内視鏡的切除後胃の3つに適応が拡大されることになりました。

近年内視鏡技術の進歩によって、胃がんの早期発見率が向上し、開腹手術をしなくても治療ができる胃がんが増えてきました。胃がん自体の発生率はまだ低下したとは言えませんが、死亡率が低下傾向にあることは、明らかに早期発見と治療技術の貢献です。今後更に胃がんの死亡率を下げるためには、診断治療技術を向上させることも、胃がんの発生そのものを抑え込む対策が必要です。

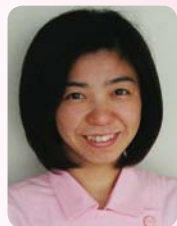
そこで最も注目されるのが、胃がんの発生母地になる萎縮性胃炎に対するピロリ菌の撲滅(除菌)です。胃がんの発生を抑制するためには、萎縮性胃炎の時点で除菌することが重要と、国際的には既に奨められています。日本では国家的医療費抑制政策の中で思うように承認されてきませんでした。その中で今回の三疾患の追加承認は一歩前進ではありますが、まだまだ充分とは言えません。

胃がんとピロリ菌との関連で近年注目されてきたのが、胃がんの内視鏡的治療後の胃に新たながんが発生する確率を見た研究で、術後除菌した群と非除菌群では、明らかに非除菌群で新たながんの発生率が高いという結果が出たことです。

つまり、胃がんが発生した後でも除菌することによって、第2の胃がんの発生を抑えられる可能性があるというところは、胃がんの撲滅対策としてのピロリ菌除菌の意義を明確にするものと言えるでしょう。

# 当院の接遇の 根底にあるもの

事務課長 福島香代子



当院は創立時から「医療は究極のサービス業でなければならぬ」という医療哲学によって経営されてきました。サービスは人の手によって提供されるものである以上、その人の全人間性とサービスの実践能力が質を決めます。サービス(接遇)とは、サービススタッフとしての考え方、生き方そのものであり、それを向上させるためには、人間としての成長が大切であると

考えて人の育成にあたっております。また、全職員が経営理念の指し示す方向へ心を合わせ、サービスマインドを共有し、自らがサービススタッフの一員であると自覚し、部署を超えたチームワークによってサービスを提供したいと考えています。

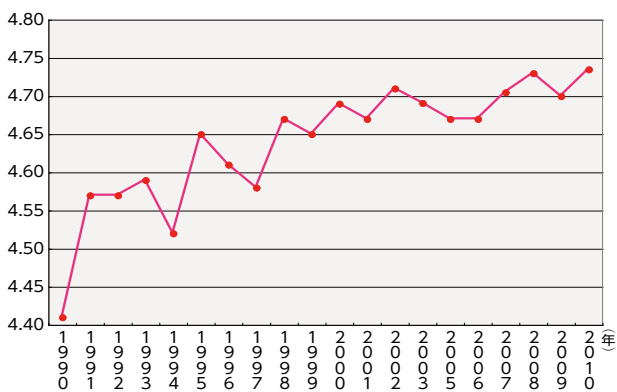
事務部では「接遇」を事務職としての重要な技術のひとつと位置づけ、日々患者様に満足していただけるような対応を心がけ、「全ては患者様のために」を合言葉に努力しております。『受付窓口業務は、当院の基本理念を心に持って、患者様に医療事務職としての医療サービスを実践する最重要の場である。窓口につく人の医療サービスの質(知識・技能・サービス精神)の良

し悪しが、病院全体の医療サービスの評価・イメージに即つながらるほど、病院の医療サービスの代表者ともいえる立場にある…その自覚が大仕事である。』これは昭和60年に作成された『受付窓口業務・医療サービス提供の基本理念』の一部を抜粋したものです。

長年に亘り、この基本理念をもって『患者様への機能的サービス(技能・知識を提供するサービス)』と『患者様への情緒的サービス(温かい心を持った対応サービス)』を優れた姿勢で提供する医療事務職であることを目指してまいりました。

単なる受付事務処理ではなく、心温かい医療サービスを提供できるよう、「患者様は、肉体的・精神的にも弱い状態である事」を心において、具体的には下記の点を心がけております。

① 常に患者様の立場に立って対応する(自分のペースで話さ



図一 患者様アンケート結果より抜粋—事務部満足度推移(5点満点)

- ない)
- ② 微笑みの重要性(微笑みは患者様にとって救いであり、病気を癒すほど大事なものである)―ゆえに、対応する時は、常に明るく微笑みを忘れず、適切な対応が必須である(目を見ながら言葉をかける)
- ③ 業務に必要な知識・技能を真剣に身につけ、正しい知識を持って対応し、患者様に安心感を与えるように自信を持った対応をする(わかりやすい言葉で話し、専門用語はさける)
- ④ 誠意を持った事務処理・対応の姿勢を持つこと(受けた事は必ず最後まで責任を持って患者様に返す)

まだまだ至らない私たちがはございますが、これらのことを常に心におき、いつも明るく温かい笑顔で患者様をお迎えし、患者様からいただく「ありがとう」の言葉をエネルギーにしてがんばり続ける…そんな病院の顔でありたいと思っております。これからも患者様の一言ひとこと、患者様と接する一瞬一瞬を大切にし、「今、目の前にいる患者様をどれだけ大切にできるか」を考えながら精一杯努力してまいります。

# あすなろ健康教室 **紙上版**

## 胆石の治療と予防について

外科部長 藤野幸夫



### 治療法

#### 1) 溶解療法

内服薬で徐々に胆石の成分を溶解する方法です。胆石径1mmに対しておおよそ1カ月と計算して内服します。完全溶解は適応症例の約18%、再発は1年で17%、3年で40%というデータがあり、以降も内服を続ける必要があります。

データがあり、以降も内服を続ける必要があります。

#### 2) 体外衝撃波破砕療法

体外衝撃波破砕療法は急性膵炎、肝機能障害、閉塞性黄疸を併発する危険性があります。溶解療法を併用する必要もあり、再発率は1年で20%、5年で約40%といわれています。

#### 3) 外科手術(腹腔鏡下胆嚢摘出術)

腹腔鏡下胆嚢摘出術は1990年ころから導入され始め、今では胆石などの治療として世界中で行われています。当院では困難症例も含めてほぼ100%腹腔鏡下手術です。当院で腹腔鏡下手術中、開腹手術に変更になったのは2005年～2010年10月までの集計では0.35%で、学会の全国集計では5.42%でした(図参照)。この手術は、最も広く行われている治療法で確実な方法です。これまで当院では、胆管損傷など重篤な合併症は

	当院 2005年～ 2010年10月	内視鏡外科学会 2007年全国集計
胆摘	1/282 0.35%	1,225/22,599 5.42%
大腸切除	2/83 2.41%	345/9,064 3.81%

図一 腹腔鏡下手術の術中開腹移行率

発生しておりません。

### 予防法

①食べ過ぎ、飲み過ぎを避ける②規則正しい食事③栄養のバランスに気をつける④脂肪分を控える⑤食物繊維を充分にとる⑥ストレスをためない⑦十分に休養をとる⑧太り過ぎないように注意する——などが挙げられますが、最近以下のような予防に関する報告もあります。

1) ビタミンCとEは、胆汁酸の排泄を増加し、胆石の生成を予防する作用があるため、ビタミンCとEの入った野菜類や果物などを摂るように心がけましょう。豆類もいいでしょう。

2) タウリンは肝臓に働き、胆汁酸の分泌を促進、細胞膜を安定化するなどの作用があります。胆汁酸にはコレステロールを排出させる働きがあり、体内のコレステロールを減らし胆石症を予防します。タウリンを多く含む食品には、さざえ、帆立貝、あさり、たこ、ずわいがに、やりいか、まぐろ(血合い)、たい、さば(血合い)などがあります。

3) コーヒーを多く飲んでいる(1日4杯以上)グループは、全く飲まないグループに比べ、胆石手術を受ける危険性は25%低くなっていることが分かりました。デカフェ(カフェインを含まない)ではこうした影響がみられなかったことから、胆石予防にカフェインが何らかの作用をしているものと考えられています。

以上胆石の治療と予防に関して記載しました。当院の病棟内ポスターにも胆石に関する記事を載せてありますので、是非参考にしてください。

## 患者様の声

総務部長 小川卓



「待合いロビーや廊下の写真や絵を見てまわるのが楽しみ」院内全体が心和む空間で雰囲気も明るい「…そんなうれしい「患者様の声」をたくさんいただきます。院内には望月院長撮影の風景写真や、1階ロビーには鈴木森繁さま、新館3階廊下コーナーには河原崎長一郎さまの絵画作品を常設展示しています。このお二人とも患者様として通院され、当院と心かよい合う信頼関係をいただきました。院内の展示作品は、そんな心のふれあいを大切に、患者様と共に信頼の絆を創り上げていきたいという川越胃腸病院の願いも込められています。

展示作品だけでなく、「清潔に光る床があるから絵画も映えるんだよね」…そんなうれしいお声もスタッフの大きな活力になっています。

当院はこれからも、皆様の目線やお声に背中を押していただきながら、最高レベルの消化器科専門医療技術と共に、生命力が高まる癒しの場であることを目標として、安心・安全第一の療養環境をベースに、より良き安らぎと癒しの空間を目指してまいります。

是非2011年も「患者様の声」をお寄せ下さい。スタッフ一同、心よりお待ちしております。

# いちご大福

(5個分)



### 【材料】

白玉粉 …………… 100g  
 砂糖 …………… 大さじ2  
 水 …………… 120ml  
 (生地に色をつける場合は水にごく少量の食紅を入れる)  
 あんこ …………… 100g  
 いちご …………… 5個  
 片栗粉 …………… 適宜

### 【作り方】

- ①—耐熱ボールに白玉粉、砂糖、水を入れ、よく混ぜる。
- ②—ラップをしてレンジ (500W) で3分加熱し、へらで混ぜる。
- ③—再びラップをして、レンジで1分加熱し、ツヤが出るまで混ぜる。
- ④—洗ったいちごのヘタを取り、水気をふき取る。5等分したあんこでいちごを包む。
- ⑤—③が冷めたら水で濡らしたスプーンで5等分し、片栗粉を敷いたバットの上に載せ、手で薄く広げる。
- ⑥—その真ん中に、④のいちごを載せ、引っ張り寄せるように包む。最後はひねるように止める。
- ⑦—余分な片栗粉を払い完成。

★ほっとタイムサービス…入院患者様を中心に、ご家族やお見舞いのお客様へご提供しているお茶とお菓子のサービス

**ほっとタイムサービス**  
 栄養科主任代理(管理栄養士)  
 横田千絵

23回目を迎えた今年のクリスマスコンサートは、全ての人に喜びと幸せを感じて頂けるようにと願い、「魂の喜びと幸せを求めて」としました。

ゲストには沖縄出身で平和を祈る魂のテノール歌手、新垣勉様をお迎えしました。全盲の障害があり孤独の人生を歩まれましたが、音楽を通して勇気と希望を得られ、この静かな聖夜、愛と慈しみに満ちた力強い歌声を私たちの為に送り届けて下さいました。

クリスマスソングに始まり、「故郷」や「千の風になって」、「さとうきび畑」等の代表曲の数々。ハンカチを目に当てる多くの方々には混じり、お子様にも涙が見られました。アンコールの「アメイジング・グレイス」が魂の底にまで響き渡り、一瞬たりとも聞き逃せない感動の連続でした。

会場はスタンディングオーベーション、鳴り止まない拍手で新垣様への感謝の渦が大きく沸き起こりました。

第二部の職員による手作りコンサートやキャンドルサービスでは、天使の衣装に身をまとった職員と共に、ご入院中の患者様や会場の皆様もひとつになって歌い、楽しく過ごすことができました。

「元気が出ました。ありがとございます」と多くの患者様からお声を頂きました。こころに安らぎが満ち溢れ、きっと明日への喜びと幸せに繋がること、強く感じたひと時となりました。

**クリスマスコンサート**  
 クリスマスコンサート  
 実行委員会委員長  
 濱辺聖(整備課主任)

情報管理委員会は、「情報」に関わるあらゆるソフトやハードの導入、及びその運用の検討を行う場として機能しております。

最近の検討案件といたしましては、当院ホームページの改定、およびクリニカルインディケーターの作成があります。

前者の当院ホームページは、長らく当院の情報開示ツールとして開設されておりますが、より多部門のスタッフが直接的にその運営に関与し、多角的に検討することで、より一層必要な情報をわかり易く患者様にご提供すべく、その運用から内容に至るまで改定作業を進めております。

また、後者のクリニカルインディケーターとは、例えば外来・入院患者数、各検査・手術の施行数、病床稼働率、内視鏡下手術における偶発症例の発生数や手術部位感染率といった病院の診療や医療安全等に関わる様々な機能や実績を、適切なインディケーター(指標)を用いて表したものです。

これらを作成し公表することは、患者様が病院選択をされる際の判断指標となることはもちろんのことですが、当該指標を分析し、必要な改善を図ることで、より質の高い医療サービスに繋げることが最も重要であると考えております。

情報管理委員会では「情報」をキーワードに、診療および医療安全の質の向上、および患者様への適切な情報提供を目指すことで、広く皆様の幸せに貢献して参りたいと考えております。

**委員会活動の紹介**  
 情報管理委員会  
 医療情報課長  
 宮野将明